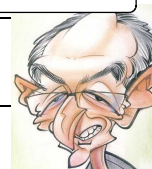


ちょっと長すぎるのでは？

令和2年度第2学年英語学習オリエンテーション



2年生のみなさん、遅ればせながら第2学年に進級おめでとうございます。縁あって、今年度も皆さんと一緒に英語を勉強することになりうれしい限りです。

【問題1】 <制限時間1分> 次の各英文が正しければ○を付け、間違っていれば訂正しなさい。

- | | |
|--|----------------|
| (1) He playing the guitar in the music room now. | () |
| (2) She study English every day. | () |
| (3) We are went to Hiroshima yesterday. | () |
| (4) This is a my pen. | () |

1 英語ってほんとうに積み重ねの教科でしょうか？

多くの人があります。「英語は積み重ねの教科だから、1年の英語がわからなかったら、2年生になったらさっぱりわからないよ。」でも本当にそうでしょうか？1年生の文法がわからなかったら、2年生の文法はわからないのでしょうか？この疑問に答えるために、2つの例を紹介します。

まず、アメリカなどの子どもがどうやって英語を学んでいくか説明します。彼らの英語の習得は、決まった段階を経ると言われています。最初に彼らは、「sleep eat work（寝て、食べて、働いて）」によく似た単純な文を早くから作り始めます。飛び立った鳥を見て「birdie go（鳥がいなくなった）」と言ったり、飛び跳ねている犬を見て「doggie jump（犬が飛び跳ねている）」と言ったりします。そして3歳にも満たないうちに、動詞の末尾に ing をつけた形を使いはじめます（例：「doggie jumping」）。それから6か月で、「birdies went」や「daddy is big」「doggie is jumping」というふうに、不規則動詞の過去形や be 動詞も使いはじめます。その後ようやく、「doggie jumped」といった規則動詞の過去形や「daddy eats」といった主語が3人称で現在形の動詞に「s」を付けるのです。専門家によりますと、「Mommy is working」よりも先に「Mommy works」と言い始める子どもはいないと言われます。

（ガブリエル・ワーナー『脳が認める外国語勉強法』ダイヤモンド社、2018）

【問題1】(1)で○と解答した人は、子どもが英語を学ぶ初期段階なのです。(2)で○をした人も同じです。三単現の-s を付けるのはアメリカ人の子どもでもずっと後なのです。アメリカ人の子どもにとって三単現の-s は難しいのです。日本の英語教育では三単現の-s と現在進行形とでは、三単現の-s を最初に学習しますが、子どもは現在進行形を最初に表現できるようになるのです。この三単現の-s がいかに難しいか和泉伸一という大学の先生が次のように述べておられます。

実際、習得が遅いどころか、何年もの間英語に触れていても、三単現の-s を一貫して正確に使うことができない英語学習者は沢山いるのである。三単現の-s は中学の早い段階から導入され、しかも規則の概念的理解はさほど難しくないにもかかわらず、習得が非常に困難なのである。

これについてはみなさんもうなずけるのではないのでしょうか？「三単現の-s はわかってはいるんだけどテストではつけ忘れてしまうんだ。」この先生言葉を言いかえれば、みなさんが三単現の-s をつけ忘れても今は仕方がないのです。この間違いを何度も指摘されることを通して、感覚的に英語の文法を理解していくのです。みなさん、どんどん間違えて、友だちに私に訂正してもらってください。

次に、みなさんが1年生のときに習った文法についてどのくらいわかっているかたずねます。現在形と現在進行形の違いがわかりますか？代名詞の例えば he と him の使い分けができますか？疑問詞の意味と使い方がわかりますか？規則動詞や不規則動詞を使った過去の肯定文、疑問文、否定文が作れますか？これらはみんな1年生のときに習ったものばかりです。英語がほんとうに積み

重ねの教科だとしたら、これらがわからなかったら2年生の英語は手に負えないことになりませんが、本当にそうでしょうか？

私はこの質問に自信を持ってこう答えます。

安心してください。大丈夫ですよ。1年の英語が完全にできなくても今からでも大丈夫です。

では、今からその理由を述べたいと思います。英語は数学などと違って、一体自分は文法が理解できているのか理解できていないのかわかりにくい教科です。2年生になるとUnit 1で過去進行形を学習しますが、これを学習する中で、過去形がよりわかり、現在進行形と現在形の違いも理解が深まったと言うことはよくあるのです。【問題1】(4)の不定冠詞aについても、2年生になっていろいろ英文を読んでいくうちに、なんとなく感覚的につかめてくることは多々あるのです。諦めずに、私石田を信じて頑張りましょう。英語で言えば、Trust me!です。

2 準備物は昨年度と同じです。

教科書、授業用ノート(15段)、英語毎日ノート(15段)、ファイル、ワークの5点セットです。授業用ノートを忘れたら、授業が始まる前までに石田先生にその旨を教えてください。コピー用紙に印刷した仮のノートを差し上げます。それから、テレビを使いたいと思います。英語係は、テレビの準備をお願いします。

3 予習はしたほうがよいの？

予習をするメリットは興味・関心をもって授業に臨むことができることです。予習なしで授業に臨むメリットは目新しさです。どちらにもメリットデメリットがあるでしょうが、授業中の効率を考慮して、予習をお願いしています。授業中に予習を行って、授業をおろそかにする人がいますのでそんなことはないようにしましょう。授業用ノートの左側に新出単語とその意味を調べて書き、本文を写します。単語は1行に2語くらい書くようにして、単語と本文で左側1ページに収まるように工夫しましょう。ノートの右側は授業中の板書を写すときに使います。

4 授業中は積極的に発言して、どんどん間違えましょう。

子どもは、間違った文を発し、それを親などに訂正されることによって、言語をマスターしていくのです。間違いを他者に訂正され、「ああ、なるほど」と思った瞬間がとても大切なのです。私たちも一緒です。英語を得意教科にするには、どんどん表現して、どんどん間違えて、どんどん訂正していきましょう。生徒の間違いをどうやって効果的に訂正していくかについて書かれた本すらあるのですよ(右図参照、私も持っています)。



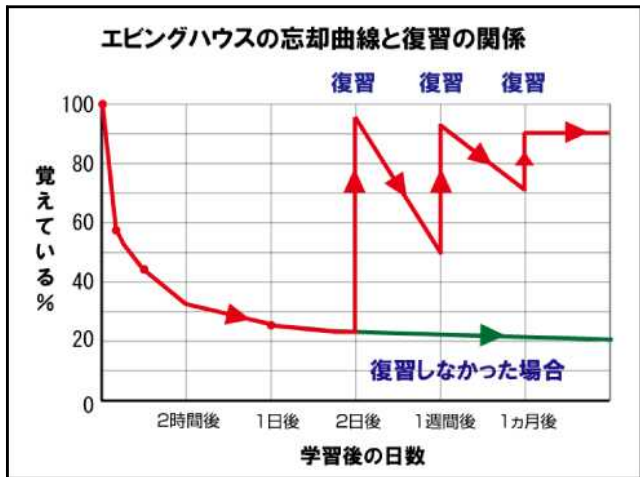
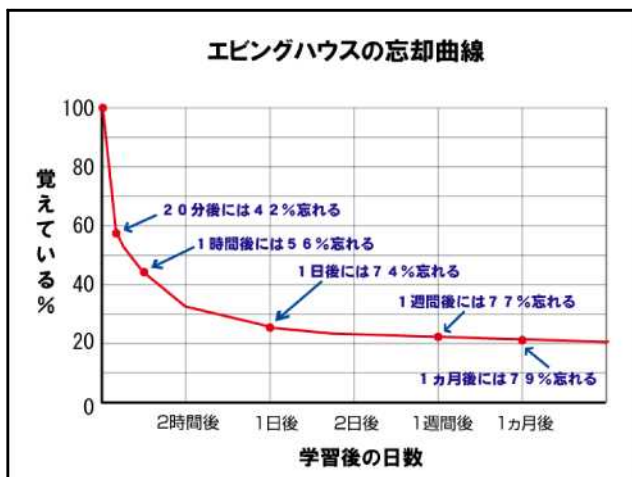
5 教科書には何も記入しないでください。

よく教科書に訳などをぎっしり書いている人を見かけますが、これはやめてください。教科書には何も書かないようにしておき、何も書いていない状態で読んだりできるようにしましょう。ただし、重要な英文はマーカーで印を付けるように指示をします。本文の発音の難しい単語の読み方及び全訳は授業中に差し上げます。付箋を用意して、Unit 1 [1]のように書いておくとすぐに確認ができますね。

6 いつ復習するの？今でしょ(ちょっと古い)じゃなくて、今と家とで。

皆さんは暗記は得意ですか？苦手という人が多いと思います。私も苦手です。と言うか、年を取ったせいか昔に比べてまったく覚えられません。しかし、中学生の皆さんは、今の時期が人生で最も記憶力が旺盛な時期なのです。今覚えておくと一生忘れませんよ。

超有名な心理学者にエビングハウスと言う人がいました。彼は、人は時間がたてばどのくらい忘れるか調べたのです。下にその忘却曲線を載せておきます。驚くことに、20分後には42%



忘れ、1時間後には56%忘れるのです。皆さんが忘れるのも無理ないのです。このデータから次のように復習をするとよいということがわかります。

その時間に習ったことを、①授業の終わりに、②家に帰ってその日の家庭学習で、③翌日に

では、どうやったら忘れにくいかと言いますと、それは上の3つの時間に

一生懸命思い出そうとする

と忘れにくいそうです。忘れそうになったことを必死で思い出したことはそれ以降忘れにくいそうです。ちょっとこの言葉を信じてやってみようではありませんか。

7 復習がとても大切です。

上の説明から、復習の大切さがわかったと思います。では、復習に何をすればよいか、いろいろな場合にに応じて説明したいと思います。エッセンスは『家庭学習の手引きクリアファイル』に書きました。

○ その日の授業で新しい目標文を習ったとき

① 板書（先生が黒板に書いたこと）の復習

ノートを開けて、授業でどんなことを学習したか思い出します。そして最初の英文を読みまします。数回練習をしたら、ノートを見ないで英文を言います。言えるようになったら、次の英文を見ます。これも数回読んで、同じようにノートを見ないで言ってみます。その繰り返しです。言えるようになったらその英文を「毎日ノート」に書きます。このとき注意するのは、すらすら言えるようになってからその英文を書くということです。すらすらと言えない英文を何回練習しても自分のものにはなりません。そして大切なことがもう一つ、英文を写すのではなく何も見ないで書くということです。一種のテストです。無意識に何度も書いたのでは力はつきません。

② プリントの復習

授業でやったプリントを見ます。穴埋め問題なら日本語訳を見ながら英文が言えるかどうかチェックします。言えなければ英文を見て何度も練習します。口で言えるようになったら「毎日ノート」に書く練習をします。これもさっきと一緒に、プリントの日本語を見て、テスト感覚で答えを毎日ノートに書く感覚です。して、何も見ないで言えるようになります。

中にはこんなことを言う人もいます。「石田先生、私は授業中に使ったプリントを家でもう1度やりたいのですが、余分にもらえますか?」もちろんあげますよ。こんなことを言われると私たち先生はとても嬉しいものです。それからもう一つ、石田先生のプリントにはいろいろなイラストや写真が出てきますが、実はこれらはもともとはカラーなのです。このカラーのプリントを手に入りたい人は入手方法をお知らせします。Google や Yahoo などの検

索エンジンで、Mr. Ishida と入力してください。すると、一番上に Mr. Ishida の新英語学習室が出ますので、ここをクリックすると私のウェブサイトに行きます。そこでプリント類をさがしてください。

○ その日の授業で教科書の学習をしたとき

① 教科書を読む

まず教科書の本文の読み方を説明します。まずは只管（ひたすら）朗読です。何度も読みながらその英文が完全に自分のものになるまでくり返します。読めない単語はプリント等で確認します。すらすら読めるようになったら、Read and Look up です。この説明をしましょう。ある1文を教科書を見ながら読みます。この時点ではもうすらすら読め(read)るので、顔を上げて(look up)何も見ないで今読んだ英文を言います。授業中に配ったプリントには教科書の本文の一部日本語に置き換えた問題があります。これを見ながらやってみます。

② 教科書の本文を書く

授業中に配ったプリントには、教科書の本文の穴埋めテストがあります。これは2段階になっていて、最初にリハーサル、次に本番となっています。まずはリハーサルの問題を毎日ノートにやります。1回やって、間違えたところをもう1度やってみます。そして翌日の本番に備えます。

③ 「暗記用英文集」をしっかり覚える

今年度も『Mr. Ishida 厳選 1学期暗記用英文集』を配布します。この日本語を見ながら英文が言えるようにしましょう。言えるようになったら書けるようにしましょう。満点が取れるようにテスト形式で毎日ノートにしっかり練習しましょう。

○ 土日月

英語の授業は昨年同様基本的に火、水、木、金です。土日にはワークをやりましょう。

8 毎日ノートをしっかりやりましょう。

上でも言いましたが、授業の復習を「英語毎日ノート」にやります。内容は、目標文の復習、教科書の本文の復習などが中心になると思いますが、今年度皆さんにがんばってほしいことが2つあります。1つめは「日記等のオリジナルな英文」を書いてほしいということです。2つめは教科書の本文を読んで「なるほど！」とわかったことを英語で書いてほしいということです。この2つはみなさんの表現力を向上させると思います。また、授業中に聞くことができなかった質問を書いてよいです。文法のまとめをしてもいいです。一番上には、学習した日付を書くのもお忘れなく。「英語係」は昨年度同様提出された「英語毎日ノート」を朝の会終了後すぐ、配布棚に置いてください。その日のうちに次のような評価をしてお返します。提出日は英語の授業がある日です。基本的には火、水、木、金曜日です。未提出者は翌日必ず提出すること。2回連続忘れたら放課後残ってやってもらいます。なお、評価は以下のように行います。

S あなたは5年に1度の逸材だ A+++ もはや神の領域だね！、A++ 感動の嵐だね！、A+ 超すばらしい、A すばらしい、B 普通だね、C もうちょっと努力して！

9 みんなが気になる評価

次のような方法で通知表の評価を行います。

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
予習、本読みの意欲、会話の意欲、発表、授業中の態度、毎日ノートの提出状況
- 外国語表現の能力
定期テスト、リーディングテスト、スピーキングテスト、ライティング
- 外国語理解の能力
定期テスト、リスニングテスト等
- 言語や文化についての知識・理解
定期テスト、単語テスト等

Mr. Ishida の令和2年度2年生英語オリエンテーション確認テスト

○次の各文を読んで、Mr. Ishida が述べたことと同じなら○を、異なれば×をつけなさい。

- (1) 尾辻先生と石田先生は親類である。 ()
- (2) アメリカの子どもは、日本人が英語を勉強するのと同じように、現在進行形より三単現の-s
を早く使い始める。 ()
- (3) Mr. Ishida は「英語は積み重ねの教科だから、今1年生の復習をしておかないと2年生
の英語を理解することは難しい」と考えている。 ()
- (4) Mr. Ishida は予習より復習のほうが大切だと考えている。 ()
- (5) Mr. Ishida は三単現の-s は理解はできても間違えないことは難しいと考えている。
()
- (6) 毎日ノートの提出日は月、火、水、木、金である。 ()
- (7) Mr. Ishida は毎日ノートには、ひたすら英文を書き続けることをすすめている。
()
- (8) Mr. Ishida はウェブサイトを開設しているが、閲覧するにはパスワードが必要である。
()
- (9) Mr. Ishida は英語を書く前にすらすら読めるようになることを求めている。()
- (10) 毎日ノートを2回連続忘れたら残ってすることになる。()